



今期も“市民感覚”をモットーに！



陳情があればやはり現場確認が基本！
問題解決のために、背景を紐解きながら検証します。
より市民に近い政治の実現のため日々奮闘中です！！

地域政党サミット始動

◆元三重県知事・北川正恭氏

「何でも国に追随・追認する」といった発想から地方は脱出しなければならない。時代ニーズに合ったまちづくりを地方自ら舵を取ることが求められている。」
(第1回地域政党サミットにて)



◆千葉市長・熊谷俊人氏

「今や地方自治は国政政党の代理戦争になってしまっている。これからの時代は地方の時代なんですから、地域政党という組織が絶対大切です。」

※活動は随時HPやfacebookを通して報告しております。



Pickup!

01

財政に余裕のない政令市ランキング1位。 「京都市職員の人件費は政令市最高レベル」にメス！！

自由に使えるのはわずか0.2%！？ 厳しすぎる京都市財政

あれをするにもこれをするにも“お金がない”。私のもとに届く陳情でも、対応したくとも財源不足の壁にぶつかってしまうものが少なからずあります。そもそも、財源不足とはどの程度なのか、イメージが湧きにくいと思いますが、この指標を見れば一目瞭然です。

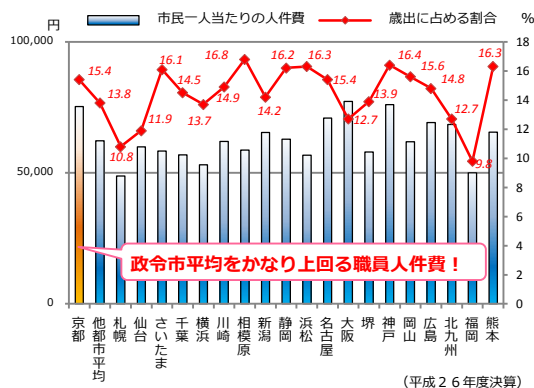
①京都市	99.8
②川崎市	99.7
③名古屋	99.3
④大阪市	98.8
⑤仙台市	98.2
⑥相模原市	98.1
⑦広島市	97.7
⑧千葉市	97.4
⑨横浜市	97.4
⑩北九州市	96.9

経常収支比率99.8。この比率は、毎年度継続して得る収入に対し、人件費など支払いがあらかじめ決まった経費の割合を示しており、京都市は自治体中なんと1位です。つまり、収入のうち自由に使えるのはわずか0.2%に過ぎず、これでは新たな行政課題が持ち上がっても対応しようがありません。そうすると、経済対策はもちろんのこと、税金の適正配分と無駄遣いをなくすことは必須課題です。

他都市よりかさむ人件費！

そこで今回、京都市職員の給与分析を実施したところ、問題点が山積していました。まず注目すべきは、この厳しい財政下にも関わらず、人件費は政令市平均を大きく上回っています。京都市の人件費が高い理由は給与が高いうえに職員数も多いことが原因です。京都市と人口規模の近い福岡市や川崎市では、業務効率化による職員数減などで京都市よりずっと低い数値となっています。(図1参照)

【政令指定都市の市民一人当たりの人件費】(図1)

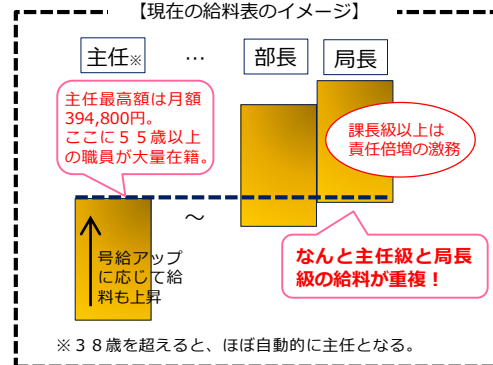


(平成26年度決算)

部長より給料が高い！？ 年収総額1,000万円超えの主任

京都市でまず改善を図るべくは部下より給料の低い部長、そして年間総収入1千万円超えの平職を生み出している制度です。公務員はそもそも「職務給の原則」に則って、役職に応じた給料になっているべきではありません。しかし、市職員は仕事に関わらず、年間4号給ずつ給料があがっていき、平の職員でも給与設定の上限が高いため、実際に4.0代の最年少部長より課長全員の方が給料が高いといったアンバランスが生じてしまっています。大手企業の課長、部長なら職責に見合った給料をもらうのはある意味当然ですが、いわゆる平の職員でも年齢を重ねれば民間企業では想像できないような高額な給料を受け取ることとなります。これが、一般市民感覚からして、“公務員給料が高い”と感じる最大の要因ではないでしょうか。実際、係長能力認定試験の受験率は例年2.5%前後に留まっており、報酬での旨みのなさが昇格への意欲を削いでいる状況が如実に表れています。

【現在の給料表のイメージ】



職員給料の見直しを提案！！

自由に使えるお金を捻出するには固定費を減らすだけでなく、限られた固定費の中で市民サービスを維持向上するには、“努力や成果に見合った制度”を構築せねばなりません。そもそも、平職員でも在籍年数を重ねれば部長級レベルの給料に届いてしまうこと自体問題です。職務に見合った給料とする「職務給の原則」のもと、最大6階級に渡って重なっている給料幅を、重複は上下2階級以内に抑え、役職ごとにもっとメリハリをつけるべきです。また、人事評価による良い悪いに関わらず一律給料4号給アップも見直し、評価に応じた昇給の差も設けるべきです。現状では、無難どころか職務が疎かでも、同じように昇給できてしまいます。これでは明らかに頑張った職員が報われません。長期的には職員の成長も鈍ることに繋がります。

基本的に労働者の給料を下げるべきとは思っておりませんが、現制度には見直しが必要です。今年度も京都市人事委員会の勧告により公務員給料が引き上げとなりましたが、一般的な民間との給料格差を行政はもっと真摯な目線で向き合わねばなりません。



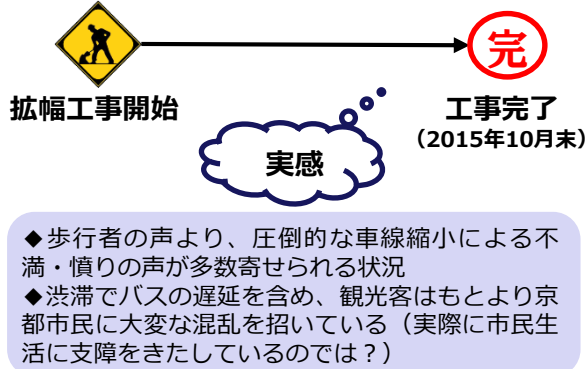
徹底取組！！

4割が「元に戻せ」

「四条通の歩道拡幅事業」の改善を求める！

工事の概要・目的

- ① 「歩くまち・京都」のシンボルプロジェクトとして四条歩道拡幅を実施
- ② 1時間あたりの四条通の利用者が、歩道は約7,000人に対し、車道は約2,200人であるため、歩道の拡幅を優先すべし
- ③ 四条通へはマイカーではなく、公共交通を利用してもらうことで渋滞は緩和できる（アクセスが不便になっても仕方ない）



京都市の主張

- ・ 春に起こった大渋滞は基本的に桜の観光シーズンで大量の観光客が流入したことが要因。工事はあくまで要因の一部であり、「想定外」の事態だった
- ・ その後、渋滞は解消している
- ・ 市民からのバスの遅延など交通渋滞に関する不満はそれほどない
- ・ 歩行者からは評判のお声が多く届いている

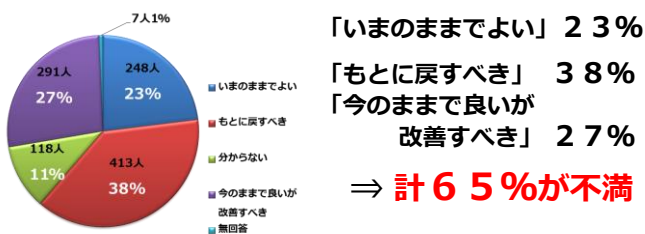


検証すべく、四条歩行者を中心にアンケートを実施！

※集計数：街頭1075件、WEB661件

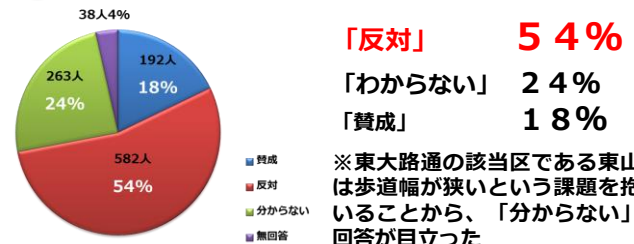
Q

「歩くまち・京都」戦略の一環である四条歩道拡幅工事をどのように思われますか？



Q

質問：東大路通（祇園四条～五条）の歩道拡幅工事が検討されていますが、それについてはどう思われますか？



※上記は結果を一部抜粋（HPにて詳細を公開中）



やはり実感していた肌感覚と皆様のお声とは近似していた。その声を議会にて問題提起。要望書として京都市へ提出。

代表質問質疑内容（一部抜粋）

◆バス停のデザイン変更（交通渋滞の緩和策）

ゼブラゾーンをまたいだ危険なバスの追い越しが横行していることから構造的な解決を成すべき。（四条通迂回の呼びかけ、バス停改札の導入などといった応急処置的な対応を批判）

改善案として、バス停車時に後続車が詰まらないようアクセススペースを確保したバス停に作り変えるべき。また、四条通りに緩やかなカーブを設けたつくりになれば、歩道空間を確保しながら交通渋滞を改善した道路構造とすることができる。



◆変圧器の移設

歩道空間の中央に20か所以上の変圧器が残っており、非常に不便かつ危険な状態となっている。技術的に難しいことが工事着工後に発覚したことは、事前調査不足で非常に問題である。極力移設に努めると共に、残る部分にも改善策を講じるべき。



↑今のままでは残る変圧器

◆屋根の検討

歩道拡幅された部分に屋根の拡張がなされていないため、信号待ちで人が多く溜まりやすい場所に雨が掛かる状況。部分的にだけでも屋根拡張の検討が必要。



↑京都市にアンケート結果を提出

◆地下道の有効活用

地下道を阪急に貸しているとの理由で検討を怠らず、幅拡張や、店舗導入も視野に入れ本格的な有効活用を進めること。

プロフィール



嵐山小、嵯峨中、北嵯峨高校 卒業。

おかげさまで、二期目に突入しました！！

- ・ 昭和60年10月生まれ。
- ・ 嵯峨野保育所
- ・ 嵐山小学校（H9年度卒）
- ・ 嵯峨中学校（H12年度卒）
- ・ 北嵯峨高校（H15年度卒・27期生）
- ・ 同志社大学政策学部卒業
- ★在学中、市議員学生秘書
- ・ 株式会社ミスミ（東証一部）勤務
- ・ 平成23年、市議員選挙にて25歳初当選
- ・ 平成27年、二期目当選
- ・ 京都党幹事長／京都党市議員団団長

江村りさ事務所

〒616-8101 京都市右京区太秦和泉式部町13-2大村ビルB

TEL 075-354-6225

FAX 075-384-0202

E-mail emurar@nifty.com HP <http://www.emurarisa.jp/>

「明日の古都会」のご案内

江村りさの活動を支えていただくための「江村りさ明日の古都会」の会員を随時募っております。

お申込みは、お電話かFAXにてご連絡いただくか、ホームページのお申込みフォームよりお手続きも可能です。多数の皆様からのご入会を心よりお待ちしております。

ご入会の特典

- 1 広報誌（年4回）の送付
- 2 市政報告会・イベントのご案内
- 3 会員証発行

年会費

3,000円

※政治資金規正法により外国人国籍の方からのご寄附（カンパ）は拝受できませんので、ご理解の程宜しくお願い致します。

振込先：京都銀行 京都市役所前支店（店番127）
 口座番号：（普）3683895
 口座名義：古都会（コトカイ）

